

# 佐保会兵庫県支部だより

## 第 8 号

佐保会兵庫県支部事務局

神戸市東灘区西岡本6-9-18

☎ 658 電 078 - 431 - 5004



林利三郎氏画

舞子七丁目六南堂

11月12日から孫中山記念会  
として開館

### 八十路すぎで

斎藤

幸(大13・理)

真夏のような太陽の照りつける日。佐保会兵庫支部の村田祥子様  
が六甲から園田の家まで「卒業五  
十五周年記念」にと朱塗高級御箸  
をお届け下さいました。丁度同級  
生の宅見さんが御越しでしたので  
同窓三人で冷たいものを飲みなが  
ら雑談をいたしました。

この記念品は兵庫支部の後輩の  
方々が長寿者五十数名の長寿をお  
祝しての誠に有難い御心からの御  
品で、御厚意を嬉しく支部だより  
の誌上をおかりして御礼申し上げます。

十二期生は一昨年が卒業六十周  
年に当り恐らくこれが最後のクラ  
ス会になるのではと宮本短大学長  
にプランをたてて頂き三笠山中腹  
の九重旅館に二泊三日の会をいた  
しました。大正十三年干支最初の  
甲子に卒業し、昨年は干支最後の  
癸亥に当り丸六十年になる芽出度  
い年とて勝山女史の仰せの如く卒  
業後六十年まで生き長らえて顔を  
合せることの幸せを共に喜び合  
いしゃべりにしゃべった三日間で  
した。

思えば入学の時、文科三十名、

理科二十名、家事科四十名でした  
が、集ったのは僅か十名、誠に感無  
量の思いでした。その時の喜びの  
心を短歌にて(文科小宮幸倉女史)  
○八十路過ぎて九重に集う友垣に  
桜の花ははくれないに咲く  
○賜わりし命かこし甲子に  
別れし友の癸亥に遇うとふ  
○春日社のしだれ桜の真盛りに  
乙女めきたる声あぐるかな  
○会うことの叶わぬ友を嘆きつつ  
ゆく春日野に馬酔木花咲く  
この感激を一同が寄書して出席  
出来ない人にお送りいたしました  
次に私事ですが卒業してすぐ文  
部省命令で大阪府立泉尾高女に一  
年、ついで神戸山手高女に二年、  
僅か三年間の教員生活を終え、結  
婚生活十四年間は満州で過し、戦  
争前に引揚げて主婦専業のまま一男  
二女を社会人として送り出したの  
は五十五歳でした。偶然のチャン  
スで八回卒文科の鷹見先生の弟子  
となりペン研究に没頭し、ペンと  
毛筆の検定に合格し、二十年余り  
毎月七回ほどの教室ながらやめて  
は駄目ですよと言われつつ生涯教  
育に老後を楽しく過ごしています

# 卒業五十五周年を迎えた方々へ

## 記念品贈呈

### 記念品贈呈の

#### 経過報告

支部長

津野 貞子  
(昭8・家)

珍重されたそうです。この堆朱に使う赤色顔料は水にもアルコールにも溶けず、酸、アルカリに強く、光線にも安定であるため食器類に利用される顔料としては貴重なものであるということです。

この箸をお届けする方法として

昨夏の佐保会総会で評議員の中から卒業五十五年を経た方には、本部会費免除がとられているが長寿のお祝いとして白扇を贈ったかどうかという提案がありました。理事長から本部で全部贈うことは経済的にも無理なので各支部別に考えてほしいという話がありました。確かにただおめでとございませうだけでは、誠に事務的で冷たさを感じます。支部役員の方々と相談しました結果、はじめに選んで現存の方にお祝をさせていただくことになり、いろいろの御意見もありましたが、輪島塗の堆朱の箸に決まりました。

堆朱の技は室町時代、日本に渡来し、武家社会、禅僧社会で座敷飾の具、茶道具或は贈答用として

横田 すすへ  
(昭2・文)

堆朱の見事なお箸、勿体ないとは存じますが、これから先何日の命が与えられていますやら、その残された毎夕にあれば衰えた身体に食物を運ばせていただき感謝して生きようと存じております。ありがとうございました。

印部 すすへ  
(昭3・文)

この度支部から卒業五十五周年記念として堆朱のお箸をいただきました。会員皆様のご厚意を深く感謝致します。

深い朱色の輪をつくり、塗り重ねられた美しい箸を手にしながら五十五年の歳月が描いた私の人生が思われます。

とりわけ奇しくも描かれた戦後の三十五年間の人生模様など思いめぐらしますと、よくぞとわが命のいとしさが胸に込み上げてまいります。

塗り重ねられた多色の断層がそのまま表現されている美しいこの箸、新しい意欲で、命の果てる日まで、つややかに美しく我が人生をぬり重ねていきたいものと思えます。



上田 ユクエ  
(昭4・文)

五月の支部総会に出席して「本年度から本部会費は免除です」に加えて支部から記念品としてお箸をお贈りいただき重ね重ねの恩恵に至らぬ身を顧みて恐縮するばかりでした。帰宅して家族の者に披露し、ともどもに喜び合いました。早速、夕食時席につくとお祝の新しい箸が揃えられておりました。あたたかアール朱色の地に年輪に似た模様が入り真四角でなく所々反り身加減の細工が施され、なかなか凝った意匠で、その上何ともいえぬ手触りのいい塗りとして、いただく食事も常よりおいしく感じられました。三度々々命の糧を口に運ぶ幸せの箸を手にしながら、私の心の大きな支えとなり、生きる力を与えて下さっている佐保会の皆様の御温情に感謝申し上げ、長らえた命を大切に思う毎日でございます。

三浦 静  
(昭4・文)

はるか遠い昔奈良で学ばせていただき、長生きしたというだけで卒業五十五周年の記念品をいただくに有難く一言御礼を申し上げます。

### 《東灘散歩》

#### 緑と美術館

御影と住吉の山手、緑あふれる住宅地に楚々と立つ美術館二つをご紹介します。

#### 「白鶴美術館」

白鶴酒造七代目加納鶴翁の収集による、殷代の青銅器や古陶磁器は世界に誇るコレクションであり、二点の国宝のほか数十点の重要文化財があります。六甲の緑を背に立つ青銅屋根の和様建築の美しさも素晴らしいものです。

#### 「香雪美術館」

朝日新聞創始者村山龍平氏収集の美術品を収蔵し、多くの重要文化財も含まれます。開館は春・秋二回。豊かな緑に囲まれた邸内に静かに立っています。



# 叙勲のお慶び

## ご挨拶

郷 芙美枝  
(昭8・理)

この度の春の叙勲に際し、勲五

等宝冠章受章の荣誉に浴しましたことは、皆様のご支援のお陰と深く感謝を捧げる次第です。

その際、佐保公兵庫支部より入交結構な御祝の品を頂戴いたしました。誠に有難うございました。

卒業の年は就職難の折柄でしたが、幸いにも神戸市立女子商業学校に赴任いたしました。当時は殆んど高等女学校へ奉職したもので、9から、実業学校に奉職した私が、さっと一番先に不満を訴えるだろうと先生方は案じられたご様子でした。

ところが、此所は活気に満ち、新しい教育理想に燃えた教員が、一取団結して生徒指導に当り、生徒もよく応える、素晴らしい職場でした。理数科は代々女高師出身者が担当しており、三代目の私が先軍の業績を汚してはと、無言の緊

張を覚えていた様です。

女子の実業教育の場とは言え、家庭人として立派であるための資質こそ大切であると、女子教育の理想の実現に励んだものでした。

理数科が私の責任であった事もやり甲斐があり、十五年間無欲で頑張る事が出来たのだと思います。

戦後、中学校の教務主任、校長、市教委人事主事、園長を経て、全国公立幼稚園長会副会長までさせて頂き、この度の受章のきっかけとなりました。何時の時も、自分の立場に勝手な意義づけをし、見究めを誤らず、誠実にと心掛けて参りました。

故小泉はつせ支部長様が、常に「野尻校長様が卒業の時に『あなた方は国家が女子教育のために多額な費用と多大な期待とをもって教育したのだから、たとえ結婚しても一生涯女子教育者として国家



に対する徳義的な負い目を忘れない様に」とおっしゃられた。」と話してくださっていました。このお言葉が強く頭に刻まれ、生涯の指針としてあやまちをおかさぬよう私を守りつづけ、いろいろな良いめぐり合わせにあずかり、今日がある深く感謝し厚くお礼を申上げる次第です。



### 《東灘散歩》

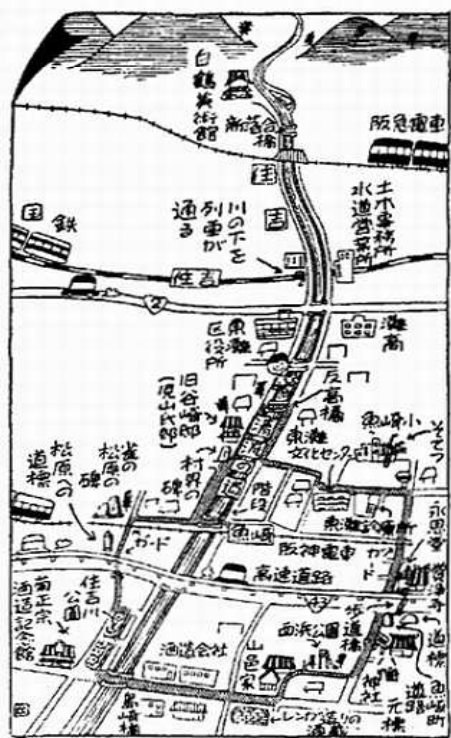
#### 酒蔵の町角と 清流の道

銘酒の産地、灘五郷を象徴

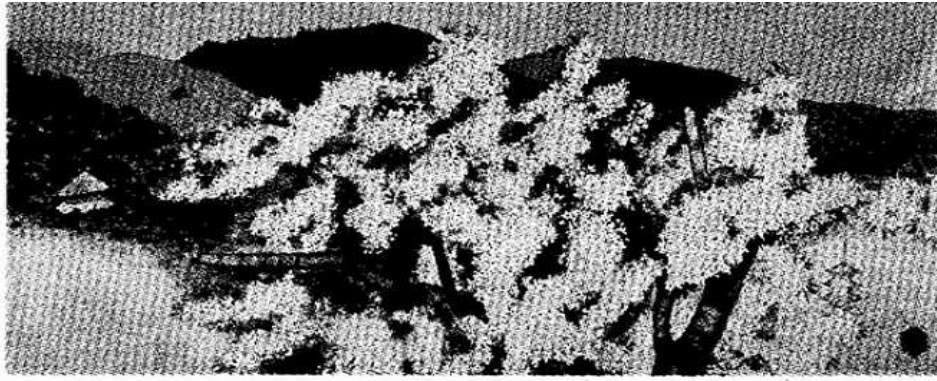
するような古い酒蔵のつづく魚崎あたりは、石畳の道と街路樹の松とが酒蔵の黒塀に映えて、落ち着いた昔ながらのたたずまいを見せてくれます。住吉川西岸には、白壁に焼羽目板が美しい「菊正宗酒造記念館」(国の重要文化財)もあって、古来の酒造用具や酒器が収蔵されており、酒づ

くりの歴史を眼のあたりに見ることが出来ます。また程近くには、谷崎潤一郎が「細雪」を執筆したという旧邸もあり、一見に値いしましょう。

そのあたりから住吉川河川敷に降りると、清流の道と名付けられた遊歩道がつかまします。神戸一の清い流れを誇る散歩道にはセキレイも飛来し、川辺の草花が季節を告げてくれます。川のせせらぎを聞きながら上流の白鶴美術館まで歩くと、眼前の六甲の緑が目鮮やかです。



東灘区役所発行「東灘歴史散歩」より



小倉遊亀画伯  
— 爛漫 —

今年、桜には未だ早い三月十七日、吾等の母校に新講堂竣工の祝典の挙げられた日、小倉遊亀姉の綴帳が、佐保会から贈呈されました。

息つめて仰ぎ待つ私共の前に、静かに幕があげられました。その一瞬大きな拍手が湧きました。さて、その一瞬のあと、その新講堂にみなぎったのは、底しれぬ静

えて、こみあげるものを抑えることができませんでした。

壇上やや右手に小倉姉は車椅子に端然と坐して、縷々と綴帳誕生までの文字通りのお骨折を語られました。その尊い数々のことばの中

で、私どもに特に大きな感動を与えたもの、それは、今日のおたりに溢れるように輝いている桜は、名に負う京の古寺常照皇寺のみくるま返しの桜を写したものと

て、わが常照皇寺は幾代々、幾春を交らぬ花を咲かせている。而もそのみくるま返しの桜は、半ば朽ちて副え木に支えられて、而もなお実に腐たく苑の白砂に枝垂るるのであります。

今仰ぐ小倉姉の綴帳、それにも、さながら生命あるものの如く瑞々しく、滴るような漆黒の太幹が大きく横たへられてあります。その古木の漆黒によりするよう

に、否、その漆黒から自ら湧き出たようなその桜のらんまん、眩しいばかりの、古木の桜のらんまん……。

## 綴帳贈呈の日

松山 ちよ  
(大6・国漢)

けき、讃仰の極みにおのずから湧くものでも申しましょうか、実に深いその静けさの中に、わが小倉姉の綴帳は——嫩草山春日山高円山をバックにした綴帳の桜は溢れるほど光り輝いて居りました。

言われたことであります。

右端には五重塔が、左端には大仏殿が小さく描かれている心にくさ

「咲く花の匂ふが如く」と喩えられたそれ、宣長の「朝日に匂ふ……」のそれらが下心になって描かれているとばかり思いきめていた私どもは、只々驚嘆の思いで、今日のあたりに輝くものに目を見張ったのであります。

——。青丹吉奈良ならではの絢爛幽婉であります。何という朧たさ何という力強さ。私共は只感に堪

あの、都塵を遠い、あの、北山杉を並み替たたせる溪流に近い、深い山のふとところに、哀史を秘め

健康な人でさえ老いては容易には訪れ難い山深い古寺へ、その古

ま、爛漫……桜にのみ許されるような、この美しい祖国のことばを、今更のように誇らしう舌にまろばしながら私どもはいつまでも母校の新講堂への佐保会からの贈りものを仰いだこととございました。哀しいまでの誇らしさで。

正倉院をまむかひにしてことはに生命光らむ君が綴帳



旧交を温められる小倉姉と松山姉

山林王と言われた私の父は、奈良県から三重県まで他人の土地を踏まなくても行けると言う程の山を持っていました。又奈良県の県会議員を五十年もつとめ政治家としても活躍しました。

# MY LIFE MY ART

松田節子 (昭6・保)

伊勢の津に海の見える別荘があり、父に連れられて兄と私はそこで楽しい週末を過ごしました。水平線からの日の出の美しかった光景は今でもはっきり私の胸に残っています。父は上京する度に、店

で一番いいものを選んでと言って絹の洋服や靴下、紺色のリボンのついた帽子、開くとプンといい香りのするパラソル等、幼い私には持ち切れない程のお土産を買ってくれました。私も父の好意に報いる為、その洋服を着てパラソルを開いたり閉じたりして、どんなに満足しているかを父に知らせようと思いました。お手伝いさん達は私を「とうさん」と呼び近所の友達からは「いとちゃん」と言われて大きくなりました。

何不自由なく過ごしているなかに、私は父の持っている地位、名誉、そして財産よりもっと大切なものがある筈、それは何か、人間は何の為に生きているのか、といつも同じことを考えるようになり家族の誰に打明けられるでもなく、ひとり悩んでいました。

たまたま従姉の貞子が「人の為に道に転がっている石を道端に除けるだけでも人は生きて来た甲斐がある。」と言った意味の詩を読んできました。其の時私の心に小さな灯がつけられた思いがしました。

丁度そんな時女学校の級友がキリスト教の日曜学校へつれて行ってくれました。そこで「人の為に石を取除く」そのような宗教に巡

りあったのです。

父は猛反対でした。然し母はもっと私を教会へ送り出してくれました。学業を終え、やがてキリスト教信者である青年(今の夫)と結婚し、唯一つの願い「私の中の小さな大切なものを、無邪気な素直さで持ち続けられる環境」を手にしたのでした。

それからつましい生活が始まりました。戦時中、子供の疎開先へ面会に行つての帰り空襲にあつて飲み水が無いという極限状態も体験しました。四人の子供を社会へ送り出す迄には、どうにもならない苦しい状態に追い込まれた事も一度や二度ではありませんでした。然しいつも笑い声を忘れず、



アムビュー画伯と松田姉

すぐ立直つて何とか道を切り開いて来ました。

聖書の中に主人が召使いにお金を預けて旅に出る話があります。Aは預ったお金を用心して地の中に埋め、Bはお金を少しでも増して主人に喜んで貰おうとしました。主人が帰つて来た時Aは叱られBは褒められました。

私はBであろうとしました。即ち頂戴した才能は少しだが精一杯増して神に喜んで貰おうと日々励んで参りました。南画、モダンアート、油彩、陶芸、各々秀れた師に巡り逢えたのは私にとって大変幸でした。又国の内外を問わず多くのよき友人にも恵まれました。「伝承」、つまり二十年間師から受けた「南画の心」を次代に伝えようと現在は教えることにも専念しています。

又一年に一回は国外に出て、ス



流れ(南仏ルヴィガンの橋)

ケッチしたものを陶板に焼いて個展をしています。これは私のライフワークです。必ず聖書から取材したものが入っていて、人々に珍らしがられ喜ばれ伝道にもなります。

今年六月初旬から約一ヶ月フランスのクレルモンのポール・アムビュー画伯(ル・サロンの名誉会長)のエコールを受け例年のようにフランスのあちこちをスケッチして廻り途中ベルギーのブルージュまで行つて来ました。

帰国後は例年になく暑さに見舞われましたが、生命をあたえて下さった神へ感謝の祈りをこめて制作に取り組んでいます。

私は生きていくのではなく、生かされているのです。いつお召しをいただいても悔いのない明るい人生を送っています。

# 原爆記念の日に寄せて

笹倉道枝

(昭9・文)

生々流転極まりもないこの世に  
処して、如何様に生きて行くこと  
が出来ようか。もしも変転きわま  
りもない現実の中に、永遠なるも  
のを求めるとすれば何が可能な道  
であろうか。宗教を想い、芸術を  
求めてさまよえる身には、この問  
題がつねに付き纏う最大の課題で  
あった。

特に私どもの年齢では、若い学  
生時代に、例えば小林多喜治が獄  
中に死した事件にも大きなショッ  
クを与えられたり、思想の自由を  
奪われた作家たちの「転向」とい  
う問題にも深い動揺を感じさせら  
れたものである。軍国主義への坂  
道は実にけわしいものと身にしみ  
て感じたのに、まして敗戦という  
憂き目に出会ってはすでに言葉も  
無かった。ビューゲンビル島に、  
花と散った義弟の身の上を思うに  
つけ、年老いて悲嘆にくれるその

親たちを抱えて、故国に残された  
多くの若者たちは涙をこらえてが  
むしやらに働かねばならなかった  
ことを思うのである。この三十九  
年にわたる故国復興の努力は、今  
日八月六日広島原爆記念日を迎  
えて、ひしひしと身を感じさせら  
れるものがあるのも当然と言えよ  
う。

都会を故郷に持つ人間が、その  
ふるさとを追われて疎開先に住み  
つかねばならなかったとき、もう  
芸術どころのさわぎではなかった  
のである。紙とエンピツとさえあ  
れば何か書きつけることが出来る  
と安易に考えたのが病みつきで、  
戦前の趣味のうち只一つ残された  
のが私にとっては短歌である。  
もしも命があるならばビューゲ  
ンビル島の沖に花束を投げて義弟  
を吊りたい。又歴史的な観点から  
自分の歌が、その時代時代にどの

ように変化したかも、研究してみ  
たいと思っている。知識人の使命  
とがいう、大それたことではない  
が、その他に何か残された仕事  
がある様に思われるのも年寄りの冷  
水であろうと一人苦笑している。

(最近の歌より)

大海に漂よう舟の如く揺れ、揺れ  
ながら生きる晩年の生

過ぎてゆく時間にやさしい眼ざし  
を遅すぎもせず速すぎもせぬ

うずくまるこの暮らしさえ有難く  
チチと鳴く烏山茶花の茂み

この身支えた幾百万の細胞よ暑い  
ま夏も寒さの冬も

胸つき八丁古来稀なる年となり登  
りつめる路のけわしさに佇つ

自己にさえ満足は無しませて人に  
不足を言うな雲光る宵

さんぷりと波の襲撃受けようとも  
輝やいている砂浜のように

## はじめまして

— 新入会員ご紹介 —

近況

深谷 利恵

(昭59・家)

大学を巣立って、はや五ヶ月。  
就職戦線ですまずきながらも、四  
月から、高校教師として、何とか  
社会人の仲間入りをする事にな  
りました。中高大の十年間を女の  
園で過ごした私にとって、共学の  
高校は全く初めての経験であり、  
最初は不安でいっぱいでしたが、  
ようやく、慣れて参りました。生  
徒から教師という立場に変わり、  
改めて、自分の学生時代を反省さ  
せられることも、しばしばです。

## 名古屋から西宮へ

牧原くに江

(昭27・家)

教科の方は、家庭科を担当して  
います。現在は、食物を中心に教  
えています。現在は、教科の範囲は生活  
全般にわたっている、めまぐ  
るしい世の中に遅れることなく、  
幅広い知識と視野をもつ必要性を  
痛感しております。正直いって、  
家庭科は、学生時代から得手でな  
く、それだけに厳しい道ですが、  
敢えて、これに取り組むことによ  
って、過去を清算し、新たな糧に  
していきたいと考えています。今  
は、「生徒と共に、一から学ぶ」

長年住み慣れました、名古屋か  
ら、あわただしく四月に、西宮へ  
移って参りました。幸いに、非常  
勤で出ております短大で、先輩諸  
姉の方々に親しくして頂き、すっ  
かり落ち着きました。昨今でござい  
ます。

夏休みには、被服研究室の先生  
方と御一緒に、伝統工芸の博多織  
と、久留米絣の町を歩いて参りま  
した。献上博多の『独鈷』と『華  
皿』の間に縞を配した模様を一段  
一段織り続ける伝統工芸士の方の  
手さばきや、草木染で染めて織り  
上げたと云う、『五色献上』の深  
みのある色合いは、とても見事な  
ものでした。



# 私と仕事

永福より子

(昭44・家)



私は奈良女子大学を卒業して、今年で十六回目の夏を迎える事になります。卒業以来建築設計の仕事が続いています。

中、高、大学と十年間を女子校ばかりで過した私が働き始めた職場は男性に囲まれた建築設計事務所でした。当時は女性技術者が珍しく、二、三年で辞めるだろうと思われていたようです。建築業界では、最初の十年間は修業の時代だ、と言います。若さゆえの白惚れや自信も厳しい現実の前に、またたく間に消えてしまいました。鈍・根・才とはよく言ったものだと今更ながらに感心します。黙々と下積に耐えて、尚かつ志を失わずにいるとその結果として、よりよい仕事、すなわち設計ができるという確信に到達するには、やはり相当の歳月がかかります。これは建築設計だけでなく、どんな分野の職業にも同じことが言えると思います。

## ①地道にやること

建築設計は一見華やかなデザイン業界のように思われがちですが、私は建築はデザイン(本来デザインという言葉の意味は深いも

のですが)ではなく、工業であると考えて言いたいのです。華やかなデザインは全て技術的な試行錯誤による裏付けがあり、その上に立っての判断の現れであると考えられているからです。毎日の設計業務は実に根気と努力の必要な仕事です。特に二十歳台～三十歳台にかけては基礎的な部分をマスターする大切な時期でもあります。とにかく地道にやるしか他に方法はなく、その中から楽しさも生れてきます。

## ②働くことは善である

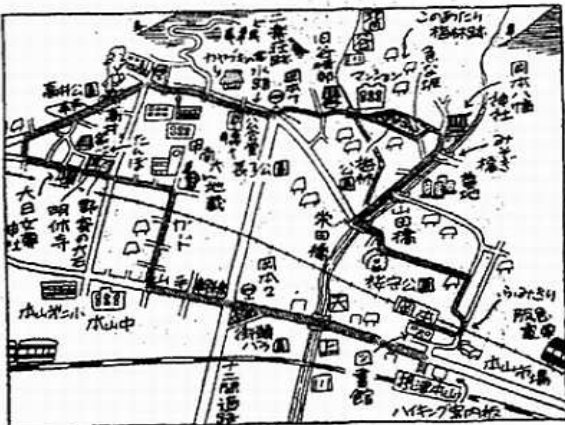
日本人は働き蜂だとかワーカールリックだという風に、働くことを軽蔑した言い方がもてはやされているようですが、はたして働くことは悪でしょうか。「労働」という言葉を私は好きにはなれません。なぜなら「労働」＝「働かさず」であるという受身のイメージが浮んでくるからです。私にとって働くことは実に楽しいことなのです。「自分に合った創造的な仕事をしているからそんなことが言えるのでしょうか。」という反論もあります。建築設計が自分に合っているかどうかということについては深く考えたことはありませんし、その必要もないと思います。苦しむことも多いし、自信を失ったこ

とも度々ありますが、製図台の前に座ること自体が楽しいのです。この四月から私は、キャンパス設計を手がけた短大から招かれて教鞭をとっています。設計活動を続けながらの教師生活です。今、夏休みを目前にして学校は浮き浮きとした雰囲気になっています。そんな学生達の活気と夏の日射しのうちに、私も未来への期待に胸をふくらませています。



博多織の華やかさとは対象的に、筑後地方に生まれ育った久留米の素朴な色合いや柄にも、また一層の愛着を感じました。久留米の重要無形文化財指定の「森山さん」から大変な熟練を要すると云うじっくりの細い手仕事や、小柄の織りの難しさ等を伺ったり、昔ながらの手織機を動かす、管巻をまわしてみました。猛暑の中、しかも駆け足の旅でしたが、日頃は中々接し得ない見事な伝統工芸の美しさに触れることができ、大変楽しい数日を過ごしました。

## 東灘散歩 梅林公園と桜守公園



東灘区役所発行「東灘歴史散歩」より

かつての岡本梅林をしのばせる「梅林公園」には紅梅・白梅・枝垂梅など約三十種、百三十本の梅が植えられている。高台からの展望も素晴らしく、馥郁たる香りを楽しむのに絶好である。

また、「桜博士」で知られる故笹部新太郎氏邸につくられた「桜守公園」には、樹齢四百五十年の御母衣桜の分身をはじめ、六種十七本の桜が植えられ、「桜の資料館」として親しまれている。

陶芸に魅せられて

— 塩見隆子さん —

(昭44・理)



神戸市内の中学校で数学を教えられるかたわら、陶芸にいそしんでいらっしゃる塩見隆子さんを学校にお訪ねしたのは、夏休みに入ったばかりの七月二十一日、暑い盛りでした。陶芸クラブの窯入れに早朝から汗を流しておられる真最中にお邪魔いたしました。一学期の間に創られた作品を仕上げるべく、ゴーゴーと燃える炎を見つめながら、黙々と油を注ぎ込んでおられるお姿は、一つのことに打ち込んでおられる美しさに輝いておりました。

塩見さんが陶芸の世界にお入りになるきっかけは、八年前、芦屋の滴翠美術館の陶芸教室に通われるようになったことからでした。元々、陶芸や彫刻といった立体に興味をお持ちだったことから、楽しみにとお始めになったことでしたが、五十二年に現在の住吉中学にご転勤になられた折には、陶芸クラブを創設しよう、とお思いになる程に熱中していかれたのでした。そして、その年の秋、校長先生、二人の美術の先生が力を出しあって窯を造り上げてくださったとお聞きして、塩見さんの熱意の程がうかがわれる思いが致しました。創部当時四名だった部員が、現在では三十四名にも膨れあがったというのも、熱心な指導が実を結んだものと、感心もいたしました。

塩見さんの陶芸に対する思い入れはクラブだけにとどまらず、五十八年春には、ご実家のある大江山の麓にご自身の窯を造られるまでに昇まっていたいかれたようです。この窯は、設計もご自身でなさってお造りになったとかで、長い休みには帰郷されて、作品づくりに励んでいらっしゃいます。その年の八月、一週間「アトリエ展」を開催された折には、沢山の方が立



窯に火を入れる  
塩見さん

り付けたりして活用するとき、この上ない喜びを感じるとおっしゃいます。土、釉薬、焼の三身一体で焼き上げるとい陶芸の醍醐味を全身で享受していらっしゃる様子を、羨ましく拝見したことでした。

ち寄られて盛会だったとお聞きいたしました。

草木灰と長石の調合による釉薬を使つての伝統的な手法で、素朴な色合いの作品を創り上げること、に腐心していらっしゃるのと、汗と心で出来上がった作品に囲まれて、花を活けたり、食物を盛

また、ご自宅の一室にも陶芸室をつくって、いつでも粘土に触れることができるようにしていらっしゃるそうで、「粘土をこねて物をつくるって楽しいですし、意外と簡単ですよ。また一度つくりにおいでください。」とお誘いをいただいて、心が動いたことでもございました。

これからもお仕事を続けられながら、素晴らしい作品が数多く生まれますことをお祈りしつつ、秋の文化祭で今日の作品を拝見させていただくのを楽しみに、窯を後にいたしました。(柳瀬記)

るこびを  
すか?

☆

☆

塩見隆子

藤井道子

(昭17・文)



# 創作のよ 如何で

## 染色へのお誘い

角野芳子

(昭45・家)

一口に染色といっても、実に色々な方法があります。諸姉の中には経験者やベテランも多くいらっしゃると思いますが、又難かしくて手が出せない物だと思ひ込んでおられる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。私も数年前、思いきって始める前までは躊躇していた一人です。絵を描いたり、細かい作業が苦手なので、被服学科に在学中は、実習や実験がたらく単位を取るのがやっとでした。幸い手ほどきをしてくれる人がいましたので、染め始めて二年で手染の服の作品展を開きましたが、級

友達は本当に驚いていました。そうだったのです。最初から難かしい染め方を習わなくても、自己流で充分に楽しめますし、他人の作品と比べることも必要ない訳です。服に限らず、クッションやフトンカバー等世界で唯一つしかない自分の作品を身近かに使えるって楽しいことです。飽きれば、染めなおして新しくしましょう。失敗作だと思っても、意外と誉めてくれる人もいます。

私の場合、最初は縞模様を染めました。筆にたっぷり染料を含ませて、線を引くだけです。お習



作品にかこまれて

字の感覚です。布地にどどんとじんできく所と、かすれる所とを組み合わせるだけで、実に色々なパリエーションが楽しめます。適当につなげると、節のある縞になりますし、円型や放射状の模様にすることもできます。最初薄色で縞柄にしておき、乾いたら上から濃い色で線を加えると、立体感が出てきます。多色染にしても異和感が少ないのは、染料が重なった所が混ざり合い、ほかし効果がでるからでしょう。ほかしは手染めならではの特色、利用しない手はありません。逆に一番難かしい無地染めはさけて、ハケ跡を利用

すると、思いがけない柄ができます。染色では色のにじみを止める為にロウや糊を使い、それぞれに特色のある作品ができるのです。私にはあまり使いません。その方が後処理がずっと楽だからです。次に、染料に何を使うかですが、現在の科学では、取扱いが簡単で、洗濯に強く、風合い、色合も良いという夢のような染料はありません。何か一つ欠けるとしたら……。最初は顔料樹脂染料が無難です。扱いは水彩絵具なみ。洗濯機で……という種類もあります。難点は仕上りが幾分固くなる事と、摩擦に弱い事ですが、黒地

にも描けるので、持っている便利です。

私は色合いが好きなので、直接染料を使っています。濃色は、洗濯の度に色落ちするのが難点ですが、色々な染め方が楽しめます。絹や毛用の酸性染料と処理が同じです。蒸し処理が面倒な方は、京都の業者に送れば、仕上げで送り返してくれます。変質しにくいので、いつまでも使えます。アイトフラワー用に少量ずつ売られています。

洗濯に強い染料も何種類あります。反応性染料は工業的にも多く使われていますし、家庭でも扱えます。もちろん藍染や草木染から始めるのも良いでしょう。エキス分が売られていますので、手軽になりました。手引き書もたくさん出ています。草木染の糸で織物や編物にすると素敵でしょうね。

染色教室で色々な人と「作品」を作るのも良いし、染料の扱い方だけ教えてもらって、自分流に染めてみるのも良いでしょう。失敗を恐れることはありません。カラフルな雑布をいっぱい作ってみるのも、おもしろいと思われませんか？ よろしかったら、と一緒にどうぞ!!

# 佐保婦人学級だより

## 短歌づくり

### を楽しむ

佐保婦人学級の中での和歌の学習で、初心者の方に笹倉道枝師の御批評と添削をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

坪根 ミキ

○ほのかにも甘き香りを漂わせ  
月下美人の白き花咲く

○暮れなすむ頃ともなりて鈴虫は  
羽をふるわせりーんりーんと

○つらきことに出あひてはじめて  
よき人の心のぬくもりしみじみ  
思ふ

橋爪よし子

○花故に朝な夕なおいそがしさか  
ぎりある身のいとおしくなり

○待ちかねたさぎそうようやく花  
開き造化の妙に飽かず眺める

藤井 綾子

○主賓の師待ちに待っても現れず  
ついに主なき傘寿の祝い

○出迎えし孫の顔ばせ何となく古  
き写真の我と重なる

藤井 勢子

○古き本開きてみれば匂ひくる  
思ひ出あれもこれもなつかし

○びんと咲く薄紫のききょう花  
暑さもよそに母さんの花

森塚 京子

○脊の君を亡くされし友の久々に  
佐保の集ひにみえませし日ぞ

○六甲の百万ドルの夜景より  
美しく見ゆ今宵の熱海よ

内山美智子

○さまざまの人種ありアダビの  
空港の店にあふれる日本製品

○政宗の昔をしのぶ御薬園池にき  
らめくふくよかな鯉

○みちのくのフルーツラインみど  
りこく赤き実しみる窓外の景

大津 澄子

○京めぐり冷房の中腰痛み友は笑  
ひぬ老人めくと

田原いつ枝

○蟹とりに田舎の小川につれ来し  
が手をささず孫は見つめるばかり

○わが誕生日黄のぼらの花贈りく  
れる子と嫁のある今日のしあわせ

津野 貞子

○青酸カリのむべきときを失ひて  
いまある命尊しと思ふ

○よりそひて庭先に立つ教へ子の  
墓標自ら断ちしとふ若き命よ

○流麗なる手首の動き師の手話に  
美しき詩の情景まぶたに浮ぶ

○手話ならび手首の固さしみじみ  
とたて横 斜にふって見つとも

近藤 房子

○戦いに打ち焼かれたるこの浜の  
かの家なつかし若き日の幸

○父母も妹もなし夫も逝きし四十  
年の来しかたを思ふ

○水すめる朝 夕のなぎの海に日  
日に泳ぎぬ夢の如しも

○泳ぐ手をとめて浮べば空かぎる  
須磨の山々連なりてありき

## ◆ ◆ ◆

二年目を迎えた婦人学級は、美

横のつながりを感じるのもこの時  
です。

しく心豊かに生きよう、を今年の  
テーマとして、左のような学習を  
しています。講師の方を外部から  
もお願いし、広い視野からのお話  
をうかがっております。そのあと  
講師を囲んでの自由参加の昼食会  
では、各自が話題を提供し、おし  
やべりに時の経つのも忘れず。  
子(昭33・文)が参加しました。

学習テーマ 美しく心ゆたかに生きるために  
日 時 左記の火曜日午前10時〜12時  
場 所 神戸市勤労会館及び関電サービスタワー

月 日	学 習 項 目	講 師
6/5	開講式(自己紹介・学習計画について)	津野貞子
6/12	高齢者と食生活	頂ひな子
6/19	"	"
6/26	手話	笹倉道枝子
7/3	"	倉田節子
7/10	心ゆたかに(和歌について)	笹松印
7/17	私の歩んだ道	倉田節子
7/24	偕老へのみち	笹松印
8/29	大阪ガス堺工場見学	笹松印
9/11	心ゆたかに(自作和歌についての学習)	笹松印
9/18	男女雇用平等法	笹松印
9/25	"	笹松印
10/9	高齢者のくらし	笹松印
10/16	ゆうゆうの里見学(午前)	笹松印
"	ラウンドテーブルディスカッション(午後)	笹松印
10/30	電気の上手な使い方(実習)	関電担当者
11/13	美しく生きるために話合ひましよう	北川秋子・菅瓜了 ・飛鳥光恵
11/20	老人在宅ケアの実際	林のへ
2/26	閉講式(来年にそなえて、学びたいこと)	

# 支部総会報告

昭和五十九年度支部総会が、五月二十七日午前十時三十分より、三宮貿易センタービル二十四階の「パীগ」において開催された。今年も雨もよりの天候だったが、会員六十五名出席、盛會裡に午後三時閉会。

## 総会次第

- 一、開会のことば  
副支部長 安達英子(昭18・文)
- 二、支部長あいさつ  
津野貞子(昭8・家)
- 三、新入会員歓迎のことば  
津野貞子(昭8・家)
- 四、新入会員挨拶
- 五、議事 議長 津野貞子
- ①昭和五十八年度事業報告  
支部報告竹田喜代子(昭22・臨数)
- 本部報告 村田祥子(昭31・家)
- 佐保短大報告  
八木静子(昭9・文)
- 大学婦人協会報告  
木本英子(昭23・家)
- ②昭和五十八年度会計報告  
内山美智子(昭20・理)
- ③昭和五十八年度会計監査報告  
大路涼子(昭16・保)

- ④昭和五十九年度事業計画(案)  
中村京子(昭32・理)
- ⑤昭和五十九年度会計予算(案)  
内山美智子(昭20・理)
- ⑥「支部だより」編集委員紹介  
前編集委員長  
曾谷愛子(昭12・家)
- 六、お話し  
①「三月十七日綴帳披露式に列して」  
講師 近藤房子(昭6・文)
- ②記念品贈呈
- 七、会食
- 八、閉会のことば  
副支部長 浅野晶子(昭23・家)

議事終了後、近藤房子姉の「三月十七日綴帳披露式に列して」と題して式典当日の感動的なお話をうかがう。尚綴帳「爛漫」についての小倉先生のお話を録音テープを通じて拝聴する。若々しい情熱的なお声で古木に咲く桜の美しい姿などを語られ、我々一同深い感銘をうけた。続いて卒後五十五年を迎えられた方々に記念品(堆朱のお箸)を贈呈した。引続き隣室で会食に入り客員増田先生も御参加、終始なごやかな雰囲気包まれ最後に校歌を斉唱して午後三時閉会。

大路涼子(昭16・保)

坪根ミキ(昭16・B理)

## 昭和59年度役員一覧

支部役員	支部長	津野 貞子 (S8・家)	本部役員	理事	津野 貞子 (S8・家) 村田 祥子 (S31・家食)
	副支部長	安達 英子 (S18・文) 浅野 晶子 (S23・家)		評議員	佐藤すなほ (S19・家) 内山美智子 (S20・理) 森田 絹子 (S29・理数) 横山しづ子 (S31・文史)
	事務局	内山美智子 (S20・理) 竹田喜代子 (S22・臨数) 中村 京子 (S32・理物) 杉山レイ (S33・文英)		佐保短大理事	八木 静子 (S9・文)
	会計監査	大路 涼子 (S16・保) 飛鳥 光恵 (S29・家住)		大学婦人協会役員	木本 英子 (S23・家) 岡野 明子 (S32・文英)

## 昭和59年度地区リーダー一覧

地区名	氏名	地区名	氏名
神戸市東灘区	魚崎 茂子 (S10・理) 柳瀬あや子 (S42・文国)	芦屋市	橋爪よし子 (S9・理) 安達 英子 (S18・文)
灘区	寺尾喜美子 (S33・家) 山下 和子 (S39・理)	尼崎市	佐藤すなほ (S19・家) 中野 久子 (S29・理) 真淵 瑤子 (S33・文幼) 鈴木 久子 (S37・家)
中央区	横山しづ子 (S31・文)	宝塚市	中村 俊子 (S9・文) 藤田 美恵 (S32・理)
兵庫区	上田ユクエ (S4・文)	西宮市	谷沢 郁子 (S20・文) 吉本 英子 (S22・文) 木本 英子 (S23・家)
北区	小田 清子 (S10・家)	姫路市 (下記市郡を含む)	溝川美枝子 (S15・家) 山下 静香 (S22・家) 土井千鶴子 (S36・家)
長田区	郷 芙美枝 (S8・理)	相生市	
須磨区	近藤 房子 (S6・文) 八木 静子 (S9・文)	市郡市郡	
垂水区	曾谷 愛子 (S12・家) 竹田喜代子 (S22・臨数)	相赤赤竜揖神	
西区	田中 菊枝 (S9・理)	三木市	竹崎美佐保 (S18・文)
明石市	立石 睦子 (S9・家)		
加古川市	茶谷万寿代 (S19・家)		
伊丹市	齊藤美智子 (S34・理) 松本加代子 (S44・文)		

もより会だより

第一回灘区もより会

山下 和子  
(昭39・理)

日時 五十九年四月三日

午後一時より五時まで

場所 六甲道勤労市民センター

会費 千円(センター使用料・お

茶菓子・果物・写真代)

出席者 十名

自己紹介、及び各自の近況報告等、また、それぞれの時代の寮の食事のこと、先輩後輩の関係のこと等の話をして、楽しく過しました。後日、皆様にお写真を送らせて頂きました。



第一回芦屋地区の集り

安達 英子  
(昭18・文)

地区の集りを早く持ちたいと願いつつ、数年経ってしまいました。皆様の御都合もいろいろありと思いましたが、日が少し長くなった五月七日(月)の午後二時から四時まで、お茶の時間に安達宅で、第一回の集りをいたしました。五人でも十人でも集って、同窓の気楽な時を持っていただければ幸いと念じつつ御案内を差し上げました。五月九日(月)と間違えて印刷をし、橋爪様とあわてて訂正の電話を手分けして掛けたり早々から失敗をいたしました。西牧様(T3)の御家族の方とお話出来て御様子分ったり、中村様(T11)の家の中は歩いていながら外出は無理との事なども分り、名簿の電話で通じなくて電話帳を繰り直して、名簿の訂正が出来たり、思いがけない収獲がありました。出席は十一名。宅見様(T13)が大先輩で、坂田様(S51)がお子様二人連れでお出かけ下さいました。赤崎様(T5)が手芸をいろいろしていらっしゃる事、眼の手術をなさったお話、お茶の先生で何時も和服の吉井様(S19)が機械にふりまわされての、朗読の

テープ吹き込みの事、松木様(S33)の川崎製鉄研修所で四十代の人に化学の講義の事など、お話はまだまだありましたが、はじめての事ですので時間厳守で四時すぎに閉会といたしました。其の後、駅のホームで声をかけていただいたり、道でお会いして立ち話したり、道でお待ちで新しい出合いの機会があった事と思えます。皆さんと又お会いするのを楽しみにしながら、第一回の集りの報告といたします。

睦会だより

五十八年十一月一日、さわやかな秋晴れの中、睦会(六十歳以上の方々)の集いが山菜料理の六段で開かれました。この年不幸にして他界された方々に黙禱をささげた後、またたび酒で乾杯、はなやいだ宴が始まりました。秋の香りに満ちたお料理に感激しながらの自己紹介では、皆様どなたも矍鑠となさっており、現役で、また趣味の道でご活躍の様子。尊い人牛体験をうかがって、お互い励まされたり、共に喜びを分かち合ったりしたことでした。福引きの楽しみも加わって、最後に一同で高らかに校歌を斉唱し、名残りを惜しみつつ、次回を約束して散会いたしました。(曾谷)

事務局だより

- ◇行事(昭和58・10~59・9)
  - 本部会報、支部だより第7号、会計報告書発送(58・11・21)
  - 昭和58年度佐保婦人学級閉講(59・2・29)於神戸勤労会館
  - 新年会(支部だより編集反省会もかねて)(58・1・8)出席28名
  - 支部総会・議事、近藤房子姉のお話、記念品贈呈(59・5・27)於パীগ出席65名(新入者2名)
  - 昭和59年度佐保婦人学級開講(59・6・5)於神戸勤労会館
  - 睦会(58・11・1)
- ◇お慶び
  - 川口汐子姉(昭19・文)
  - 兵庫県文化賞受賞(58・11・3)
  - 郷美美枝姉(昭8・理)
  - 勲五等宝冠章受賞(59・5・3)

〔編集後記〕

本年度の「支部だより」は、東灘地区四名で編集いたしました。前号までの編集方針を参考にさせて頂いた大きな変助かりました。今年度は母校に新講堂が竣工され、小倉遊亀先生の原画による綴帳を佐保会より寄贈いたしました記念すべき年でもありますので、本号は、文化、芸術方面で御活躍の先輩の方々や若い年代の方々に御寄稿をお願いいたしました。この「支部だより」が少しでも皆様方に、身近なものになればと願いつつ編集させていただきました。いろいろ不備な所も多いかと存じます。どうぞお許しくださいませ。なお、原稿を御依頼いたしました諸姉には快い御返事を賜り、感謝いたしております。皆様のご協力で、ようやく発行の日を迎える事が出来ましたこと厚く御礼申し上げます。表紙は今回も林利三郎画伯の作品を頂戴いたしました。ありがとうございます。

◇地区もより会

58・11・27	北地区	9名
58・12・11	東灘地区	22名
59・1・29	長田地区	9名
59・1・29	尼崎地区	13名
59・4・3	灘地区	10名
59・4・6	須磨地区	16名
59・5・7	芦屋地区	11名
59・5・20	姫路地区	30名

編集委員 坪根 ミキ 藤井道子  
柳瀬あや子 角野芳子

報 告

谷 ちくち (昭9・文)	(58・9・30)
赤木 さち (昭5・文)	(58・12・22)
本村 正子 (昭9・文)	(59・4・25)